

ていぱーく所蔵錦絵紹介（保永堂版②④）

### 東海道五十三次之内 嶋田 大井川駿岸



川幅が広く東海道随一の難所とされる大井川の川越しの様子が俯瞰的に描かれています。この川は駿河、遠江の境となっており、この絵は駿河側の渡し場のようです。大名行列の一行やその後ろには一般の旅人が川越しの順番を待っています。

右側に見える土手状のものは、急流を緩やかにするためのもので、牛と呼ばれる合掌木に石をつめた蛇籠じやかごをのせる枠入れという古来の工法で作られています。



ていぱーく所蔵資料紹介③⑦

### 初代逓信大臣 榎本武揚（写真）

榎本武揚は、長崎海軍伝習所で学んだ後、オランダに留学しました。帰国後新政府軍に開陽丸の引き渡しを拒み、函館の五稜郭にたてこもったことは、ご存じの方も多いと思います。榎本が持ち帰ったディニエ印字電信機は以前この欄でご紹介しました。

明治18年12月に逓信省が創設されると、初代逓信大臣に任命され、同22年3月まで務めました。下野していた前島密がこの時逓信次官を引き受けたのは、同じ幕臣の榎本の依頼であったからでした。

（錦絵／資料解説：附属資料館 井上卓朗）